

2025年度業務実績報告書

提出日 2026年 1月13日

1. 職名・氏名 教授 長岡亜生

2. 学位 学位 修士、専門分野 文学、授与機関 東京都立大学、授与年 1994年

3. 教育活動

(1)講義・演習・実験・実習
①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 英語 A（2単位）1年次生必修 前期1クラス（生物・創農・恐竜）
②内容・ねらい ・総合的な英語運用能力に必要な語彙・文法知識を身につける。 ・文法の知識を読解や作文等に活用するための基礎固めをする。 ・さまざまな練習問題を通して文の成り立ちを正確に理解する。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 新科目として約90名を対象に実施した。毎回スライドを用意し、練習問題の解答提示にとどまらず、文法事項を整理して提示し、理解が深まるよう工夫した。Google Classroom を活用して授業内課題や予習・復習課題を課し、教室外でも学生が継続的に自主的に学習できるよう促した。また、課題を通して大人数授業においても学生の理解度を把握し、到達度や誤答傾向を授業に反映させ、次回以降の指導に生かした。
①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 英語 B（2単位）1年次生必修 前期1クラス（経済学科）
②内容・ねらい ・英語 A で学習する文法や語彙の知識を実際に使えるようにする。 ・英語で発信する練習を通して、総合的な英語運用能力を高める。 ・社会・文化・自然など幅広いテーマで自己表現できるようにする。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 Google Classroom を活用し、予習用のオンライン課題を課すとともに、小テストを実施して復習の機会を設け、継続的な学習と既習事項の定着を図った。英語 A での学習との関連を重視しつつ、アウトプットを重視した授業運営を行い、学生がペアやグループで文法事項を用いた発話ややり取りに取り組めるよう配慮した。活動後には内容や表現について簡単な振り返りを行い、学習内容を次の課題につなげた。
①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 英語 IIb（1単位）海洋生物資源学科1年次必修 前期 1 クラス
②内容・ねらい アメリカの国営放送局発信の VOA Learning English による環境関連のニュースレポートを素材とし、当該分野の語彙を身につけるとともに、基本的な英文法を習得し、英語の基礎力を固める。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 学生の関心を引きやすいテーマのニュースを選定し、英語を聞く力・読む力の向上を図った。ニュースの内容に即してグループワークを取り入れ、その際に有用な英語表現（助言や提案を行う際の表現や助動詞の使い方など）を学習し、実際の使用場面を想定した活動とすることで、学習した語彙や表現を運用する機会を確保した。学生の反応も概ね良好であった。

①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 英語発展 IVA（2 単位）1 年次以上 選択科目 前期 2 クラス（対面・オンライン各 1 クラス）
②内容・ねらい ・文学作品の文章や文学的な要素をもつ英文を素材に、英語の読解力をつける、英語に関する知識と理解を深める。 ・英米や日本の文学（小説、詩、戯曲）に親しみ、作品の背景となる社会、文化への理解を深める。 ・英語と日本語におけるコミュニケーション力を高め、表現力を磨く。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 対面授業では、グループワークを取り入れ、議論を通して学生が主体的に理解を深められるよう工夫した。オンライン授業においても、リアルタイムでのコメントや課題を活用し、一方的な進行に偏らない双方向的な授業運営を行った。あわせて、オンライン課題を通して事前・事後の学習機会を設け、作品内容や語句、表現についての理解を深めるようにした。これにより、対面・オンラインいずれの授業形態においても、継続的に学習に取り組める環境づくりを図った。
①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 英語 C（2 単位）1 年次生必修 前期 1 クラス（経済学科）
②内容・ねらい ・一般的なテーマの英文を文脈に応じて正確に読む力を身につける。 ・文法・構文の理解に基づき、英語を論理的に理解できるようになる。 ・身近なテーマを英語で理解することで自らの興味関心の幅を広げる。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 大人数の授業であったが、授業で扱う各英文のトピックに関心をもたせるため、アンケート形式で問いかけを行った。毎回スライドを用意し、問題の解答提示にとどまらず、語彙への理解を深め語彙力の増強を図るため、関連語句や表現を整理して提示した。また能動的な参加を促すため、マイクを回しながら学生ひとりひとりに解答や発言の機会を与え、英文の音読を発表させた。これらの活動は発言ポイントとして集計し、学習意欲の向上につなげた。オンラインでの授業内課題や予習・復習課題を課し、理解度を把握するとともに、教室外でも学生が継続的に自主学習に取り組めるよう促した。
①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 英語 D（2 単位）1 年次生必修 後期 1 クラス（経済学科）
②内容・ねらい ・人文系の語彙・表現に慣れ親しみ、文脈に応じた正確な読み方を習得する。 ・英文の内容に基づき、自分の考えや意見を表現・発信する力を高める。 ・自らの専門的な知識・関心と関連づけながらさまざまな英語に触れる。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 Google Classroom を活用し、予習用のオンライン課題により文法事項を事前に確認させ、小テストを通して理解度の把握と復習を行った。授業内では英文読解と文法の確認を行ったうえで、その内容をもとに発話活動へと展開し、問題練習と解説だけにとどまらない授業構成を工夫した。理解した内容を実際に運用できるよう、ペアやグループで協力して考え、文法事項について「なぜそうなるのか」を互いに説明し合いながら、英文を作成し伝える活動を取り入れた。
①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 英語発展 IVB（2 単位）1 年次以上 選択科目 前期 2 クラス（対面・オンライン各 1 クラス）

②内容・ねらい

- ・アメリカ映画を素材に、語彙、文法事項を習得し、リスニング力を中心に総合的な英語力を鍛える。
- ・アメリカの文化や生活にふれ、背景にある社会の諸問題について認識を深める。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫

映画の内容に関する予習課題を事前に課し、学生がどの点でつまづきやすいかを把握したうえで授業を行うことで、予習の実施を促すとともに、授業内での指導に生かすことができた。対面授業では、グループワークを取り入れ、映画のセリフを用いて発音やイントネーションを確認し、感情を込めて表現する活動を行うことで、理解を深め、リスニング力の向上につなげるとともに発話への抵抗感を軽減するよう工夫した。オンライン授業においても、リアルタイムでのコメントや課題を活用して双方向的な授業運営を行い、希望者を対象にオンラインでの個別面談を実施し、発音の確認や助言を行ったほか、音読データを提出させ、個々の習熟度を把握し、その後の指導に生かした。

(2)その他の教育活動

- ・海外派遣プログラム参加者に対して、出発前にイギリスの研修先に関する情報を提供し質問に回答し、学生が研修先の人びとと交流できるよう、現地関係者との連携を図った。また帰国後は参加者の報告会に参加し、英語の報告を聞きフィードバックを与えた。
- ・経済学部4年次学生の海外大学院受験にかかる相談に乗り、先方に提出する英文書類を作成した。

4. 研究業績

(1)研究業績の公表	
①著書（共著）	【0 本】
②学術論文（査読あり）	【0 本】
③その他論文（査読なし）	【0 本】
④学会発表等	【0 件】
⑤その他の公表実績	【0 本】
(2)科研費等の競争的資金獲得実績	
(3)特許等取得	
(4)学会活動等	

5. 地域・社会貢献活動

①-2・

- ・ 福井県フィンドレー大学派遣奨学生 面接委員（2020 年～現在に至る）
- ・ 福井県立図書館運営懇話会委員 （2022 年 1 月～現在に至る）委員長（2023 年 9 月～現在に至る）
- ・ 福井県高等学校英語弁論大会 審査委員（2025 年 10 月 4 日）

①-4

公益財団法人 日下部・グリフィス学術・文化交流基金 審査委員（2020 年～現在に至る）

⑦

- ・ 翻訳ミステリー福井読書会 主宰（2020 年～現在に至る）
- ・ 勝山市立荒土小学校 英語絵本読み聞かせ（2020 年～現在に至る）

6. 大学運営への参画

(1)補職

(2)委員会・チーム活動

国際センター委員

(3)学内行事への参加

履修登録指導・学生対応（オンライン）

(4)その他、自発的活動など